



衆議院議員

このチラシを周囲にお配りいただける方募集中！

きいたかし

城井 崇レポート 2020.9

きいたかし後援会事務所

〒802-0072 福岡県北九州市小倉北区東篠崎1-4-1-201

TEL.093-941-7767 FAX.093-941-5535

メール smile@kiitaka.net

きいたかしウェブサイト <http://www.kiitaka.net>

きいたかしが皆様からの「現場の声」をもとに提案

大学入試共通テスト日程の一本化を

7月22日、衆議院文部科学委員会閉会中審査にて質疑に立ち、萩生田文部科学大臣に直接質しました。

学生支援緊急給付金については、私達が提案した「コロナ困窮学生支援法案」の内容の一部実現と対応の前進を評価する一方で、もともと支給基準が厳しすぎる中、申請のあきらめが相次ぎ、1次推薦があっても給付金が届いていない事例などを伝え、きめ細やかな支援を改めて要請しました。大臣答弁でも支給状況の把握が杜撰であることが明らかで状況把握など退学に至らないような支援の充実を要望しました。

JAPAN e-Portfolioについては、運営主体の運営体制に対する疑義を示し、国による運営許可の取り消しを主張しました。萩生田文部科学大臣からは運営資格を取り消す方向で協議しているとの答弁がありました。

令和3年度大学入試、特に共通テストについては、「異なるテストの相対評価で（同一募集枠の）合否を決めるのは不合理で不公平だ」と指摘しました。試験日程を一本化するとともに、コロナ禍の影響を受けた受験生に配慮し、試験日程を1か月程度後ろ倒しにすることを求めました。

またこれまで実績のあるセンター試験の本試験と追試験の過去データを使い、追試験で特定順位だった受験生が、同じ受験集団で本試験を受けた場合、大幅に順位が下がるケースがあることを指摘しました。（例えば、令和2年度の数学ⅠAの試験では、追試験で100人中31番目の人が本試験では50番目になる、平成28年度の国語の試験では、追試験で100人中16番の人が本試験では50番になる、



等の試算）「試験を別の日程で行った場合、2つの試験は全く同等ではないというふうに言わざるを得ない」旨を大臣に申し上げました。

コロナ禍の影響を勘案し、日程をずらすという政府の発想は理解を示した上で「第1日程と第2日程は一本化して、2週間か1か月間ずらすのが『公平で合理的な入試』の方法だ」と、政府に共通テスト日程の一本化を強く訴えかけました。

さらに「日程を分けたままだと、受験生個人に日程選択の運不運や自己責任を押し付けてしまうことになる」との懸念も示しました。

大学入試についてはこのような仕組みの不具合が正されないことを少なくとも受験生はよく理解したうえで受験機会に臨む準備をしてもらわなければならないと考えます。引き続き現場の声をいただきながら、政府に改善を訴えます。

新党 立憲民主党に参加、提案型に徹します



衆議院議員のきいたかしです。いつもご支援ありがとうございます。

さて「合流新党」への対応について様々なご心配やご意見をいただいています。私なりに受け止め熟考して今後の方針を決めました。去る8月22日、5年間の浪人の一番苦しい時期に支えていただいた後援会世話人の皆さんに私の今後の方針を直接お話し上げたくきいたかし後援会世話人会を開いていただきました。今回はその報告内容の概要をお伝えします。

国会に戻していただいて2年10ヶ月余り、私は人様のお役に立つとの原点のもと、対案主義、改革主義、現実主義を貫いてきました。ライフワークの教育政策では、例えば大学入試改革の改善を2年越しで実現するなど、特に成果を挙げることができました。新型コロナウイルス対策の改善でも現場の声に基づき前進を図っています。家賃支援給付金や学生支援給付金など私達が原案を作った改善も多く実現できています。地元振興でも北九州空港滑走路延伸に向けた調査事業が始まるなど北部九州の物流の要としての取り組みを前進できています。

しかし、政権を預かっていない国政野党の立場ゆえに実現に手が届かない改革もあったのが実感です。8年続いた安倍政権のまずい部分を何とかせねばとの思いも強まっています。

そんな中にこの度の立憲・国民両党解党による新党参加の選択を迫られました。

結論は、合流新党「立憲民主党」に参加することとさせていただきます。

あの5年の政治浪人の後国会に戻していただく際の約束の一つは「政権と政策の選択肢を作る」ことでした。できる限りの「大きな塊」を作って分かりやすい選択肢を作り、コロナ対策や災害対策を最優先にコロナ後の日本の立て直しを急ぎたいと思います。

支援いただく皆様や支援団体の方々からこの度の新党参加について心配の声もあることをよく理解しています。例えば、国民民主党の中でも買ってきた「政策提案型スタイル」や「対案主義、改革主義、現実主義」を新党で貫けるのか、といった点です。

新党の政策の方向性は新党の綱領案で概ね確認しました。執行部にも直接質問して私のこれまでのスタイルを貫けると判断したところです。

一方、新党の政策方針には不十分なところもあると執行部も認めました。不安を感じる支援者・支援団体の思いも私は一つひとつ伺っています。それらを私自身が背負った上で、私は新党の中から声を上げて、現実的な政策実現に徹する腹積もりです。

コロナ後を見据え、いのちを、暮らしを、職場を支え切るために、数少ない野党の政権経験者として改めて政権交代に挑戦します。

私の目標は、教育科学技術立国日本の実現、望めば学ぶチャンスがつかめる日本にしたい、元気な北九州をつくりたい、です。そのためにあえて新党に身を投じて徹底的に働きます。徹して働くその背中を見ていただきたいと思います。

ただし、選挙に負ければ国会での仕事ができせん。再び落選となればもう国会には戻れないと思います。次期総選挙、10月下旬召集と言われる臨時国会でイギリスとの貿易協定の承認などを行った後の年末年始の解散を念頭に置く必要があると考えています。菅新政権発足直後の急な秋の選挙も想定せざるを得ません。コロナ禍で制限はありますが日常の政治活動を地道に積み重ね、野党連携など手だてを尽くして、今度こそ小選挙区で勝って地元の代表として応援いただく皆様の期待に国会の仕事で応えたいと思います。引き続き応援よろしくお願ひします。

命と暮らしを守る『新しい標準（ニューノーマル）』を創る

8月27日、「命と暮らしを守る、国民が主役の政党」の結成にむけて、「一人ひとりの命と暮らしを守り抜くこと」を、わが国の社会・経済・政治の基軸に据えて、コロナ禍を乗り越えるとともに、ポストコロナ、ウィズコロナにおける「新しい標準（ニューノーマル）を創ることを目指して、コロナ時代を踏まえた、日本の将来ビジョン・目指す社会像についての理念を発表しました。

理念には、日本の将来ビジョンとして、（1）コロナ禍及びそれにより明らかになった社会の脆弱さを克服する（2）「命と暮らしを守ること」をすべての基軸に、未来を切り拓く（3）1人ひとりの可能性をもとに、格差を排した社会づくりを通じ新たな国民生活の活力に結びつける、の3項目を掲げました。

また、めざす社会像として、（1）命と暮らしを守る生活保障（セーフティネット）が確立され、働き方・暮らし方を柔軟に選択できる安心社会（2）将来世代へ希望が繋がる持続可能な社会（3）命と暮らしを中心に据えた新しい資本主義（4）「新しい豊かさを地方から」創り出す、地域が主役となる社会（5）健全な民主主義と機能する政府・地方行政、の5項目を示しています。

自己責任から支え合いへ。わが国で働きくらす人々が分断される社会ではなく、一人ひとりがつながり合い、互いに支え合う、安心で将来に希望を持つことができる持続可能な社会のグランドデザインを共有し、この理念を踏まえ、命を暮らしを守る政策の実現強化に向けて一歩一歩進めていきます。



衆議院議員 **きいたかし**（城井 崇）のプロフィール

地元北九州で東奔西走。1男2女のパパとしても子育て奮闘中。

1973年（昭和48年）北九州市門司区生まれ。田野浦小、早鞆中、門司高、北九州予備校（2浪）、京都大学卒。松下政経塾、前原誠司代議士秘書等を経て、03年衆院選で初当選。09、17年衆院選で当選（現在3期目）。文部科学大臣政務官、衆院予算委員理事等を歴任。現在、衆院文部科学委員会理事、国民民主党広報局長、国民民主党文部科学部副部長、国民民主党福岡県連代表。得意分野：教育、科学技術、安全保障、行政改革。好きな食べ物：ラーメン。



お問い合わせ

衆議院議員 **きいたかし** 事務所 ☎093-941-7767

衆議院議員 **きいたかし**